

## ◇◇ 新たな課題に挑戦するシンガポール ◇◇

ワールドエコノミックフォーラム（WEF）が発表している「グローバル競争力インデックス（2017-2018）」において、シンガポールはスイス、米国に次いで調査対象国 137 カ国・地域の中で、3 位に位置づけられている。同レポートによれば、シンガポールは競争力に関わる幅広い項目で高い水準にある。特に高等教育の質、ビジネスのしやすさ、労働市場の効率性、金融市場の成熟度、効率的な政府・行政機関、交通・物流インフラや電力供給品質等が世界トップクラスと評価されている。

シンガポールは、1965 年のマレーシア連邦からの独立時には、とても貧しい国として出発した。国土の狭さ、国内市場の小ささ、天然資源の乏しさ、民族構成の複雑さ等の難しさを抱えている。これらの課題を俯瞰（ふかん）的かつ現実的に捉えた上で、課題の深さを逆手に取ってシンガポール型の解決策に挑んできたことが、現在の高い競争力評価につながっているといえよう。

リー・クアンユー初代首相をはじめ歴代指導者のリーダーシップは特筆すべきものである。そのもとの、外国企業誘致政策、公営住宅の整備をはじめとする都市・住宅政策、貯蓄・年金制度政策等が推進され、省庁、法定機関（監督省庁のもとにある行政機関）、政府系投資企業等が機能してきた。

シンガポールは、デジタル活用に関しても、先駆的に取り組んできた。例えば、1998 年に都市交通の需要コントロールを電子的に行うための Electronic Road Pricing（ERP）System 導入、2003 年に複数省庁にまたがる行政サービスの共通認証基盤となる SingPass の導入を進めてきた。2014 年には、デジタル活用のマスタープランとなる Smart Nation Initiative を発表し、都市交通分野や金融分野等での実験的取り組みも世界に先行している。行政のオンラインサービスに対する国民や企業からの満足度も高い。

現在、シンガポールは、アセアン地域における中国資本の台頭、国内の少子高齢化の進展や経済格差の拡大という新たな深い課題に直面している。シンガポールは、これまで培ってきたビジネス環境競争力をもとに、ネットワーキング力を強化したイノベーションハブ形成により課題に対応しようとしている。

先日、当地にてキャリアアップを目指している 30 代前半のシンガポリアンと話をすることがあった。大学時代に大学間交換プログラムを利用して、米国西海岸のスタートアップ企業で半年間インターンシップを経験したそうだ。卒業後、シンガポールの有力な法定機関で働いていたが、そのプログラムの歴代経験者コミュニティのつながりの中で、起業等のアドバイスや情報交換を続けているとのことであった。

シンガポールは、海外の有力大学や機関とのネットワーキングにも注力している。これが官と民、国内と海外、大企業とスタートアップ企業の間の人材ネットワークの基盤となり、ひいてはシンガポール型のイノベーションハブ形成につながっていくと考えられる。日本企業にとっても、多様性の高いアセアン地域での事業展開において、イノベーションパートナーとしてのシンガポールの位置づけを考える好機である。

平成 29 年 12 月 NRI アジア・パシフィック  
兼 NRI シンガポール 社長 松井 貞二郎